

森のちやれんがニュース

2021 夏

Newsletter vol.24



総合展示では、期間限定のクローズアップ展示に注目！

北海道博物館の総合展示には、2～4か月で入れ替わるクローズアップ展示のコーナーがあります。その年の特別展にちなんだ展示、新しく収集した資料の紹介や学芸員の最近の研究にもとづいた展示など、博物館のタイムリーな活動を垣間見ることができます。また、照明などによる展示中の劣化を防ぐため展示できる期間に限られる貴重な資料がクローズアップ展示でお披露目されることも。

4月16日には、「〈歩く宝石〉北海道

のオサムシ」(写真)など、7つのクローズアップ展示が一新になりました。8月13日には、第7回特別展「あっちこっち湿地」(会期：7月10日～9月20日)に関連した4つのクローズアップ展示がはじまります。

現在公開中のクローズアップ展示や



次回予告については、ウェブサイトをご覧ください。

(学芸員 渋谷美月)

CONTENTS

- ② 収蔵資料紹介
冬の遊びの定番？「子供用の櫓」
- ③ 総合展示紹介
第1テーマ「クローズアップ展示2」をふりかえって
- ④ 研究活動紹介
つながる研究、ひろがる研究
—ウシヨロの帳簿の分析まで—
- ⑥ だれもが利用しやすい博物館を目指して
—体験用教材の開発—
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
第10回アイヌ文化巡回展を幕別町で開催しました
- ⑧ 活動ダイアリー
2021年3月～2021年5月の記録

だれもが利用しやすい博物館を目指して — 体験用教材の開発 —

田中 祐未
学芸部 道民サービスグループ 学芸員

亀丸 由紀子
アイヌ民族文化研究センター 学芸員



写真1 はっけん広場 パネルとバナー設置風景



写真2 「はっけんキットの使い方」パネル

北海道博物館には、お子さまからご高齢の方、近隣の方や海外にお住まいの方など、さまざまな方が来館されます。多くの方にとって利用しやすい博物館を目指し、これまでに取り組みを行ってきました。ここでは、2020年度事業の一部をご紹介します。



「はっけんキット」を
気軽に利用できるしくみづくり

当館の「はっけん広場」（現在は感染症対策のため閉室中）には、体験学習教材「はっけんキット」が40種類以上あります。お客様が好きなキットを選んで、自由に取り出して体験できることが「はっけんキット」の特徴なの

ですが、その旨を伝える掲示が目立たず、キットを使うことをためらうお客様が時折いらっしゃいました。

その課題を解決するため、「はっけんキットの使い方」パネルと「はっけんキット」のバナーを委託制作しました（写真1～2）。目指したのは、わかりやすく、親しみやすいデザインです。パネルについて工夫した点は、①イラストだけを見てもだいたい意味が伝わるように、②易しく大きな日本語表記、③易しい英語の併記などです。バナーの方も、はっけん広場の空間全体の雰囲気に調和させつつ目を引くよう、「はっけんキット」をモチーフにしたイラストを配置したり、色使いにこだわったりして、検討を重ねました。はっけん広場再開後は、より多くの方に「はっけんキット」をご利用いただければ幸いです。



写真3 展示資料「サケの皮でつくったくつ」

総合展示室の展示資料を活用した
フットプリント制作

現在、博物館では感染症対策の一環として、チケット売り場や総合展示室内など、館内のいたるところに「足跡マーク」や距離の目安となる「2m間隔の線」を設置し、お客様に“ソーシャルディスタンス”を意識した博物館利用をお願いしています。

そのように制限が多い中でも、博物館を楽しんでもらえるよう、総合展示室内に展示されている資料から、床に設置するものだけに、資料の“足跡や足元”に注目して「フットプリント」を制作しました。例えば、第2テーマ「アイヌ文化の世界」に展示中の「サケの皮でつくったくつ（写真3）」からは、サケのウロコやヒレといった細かな点もできるだけ再現できるように工夫してフットプリントを制作しました（写真4）。ほかにも、総合展示室の展示資料を使って色々な“足跡や足元”を制作したので、今後、館内で活用していく予定です。



これからも、社会的状況の変化に柔軟に対応しつつ、さまざまな人に利用してもらえるような博物館を目指し、積極的に取り組みを行っていきたいと思います。

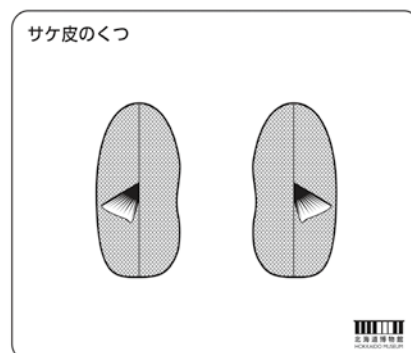


写真4 フットプリント「サケ皮のくつ」
細かいウロコやヒレのようすに注目！